

# 普及指導センターだより 第165号

## 我ら農業応援団

南魚沼農業普及指導センター  
(南魚沼地域振興局農林振興部)

南魚沼市六日町960  
Tel.772-2819 Fax.772-2612

HPアドレス [http://www.pref.niigata.lg.jp/minamiuonuma\\_norin/1222797385320.html](http://www.pref.niigata.lg.jp/minamiuonuma_norin/1222797385320.html)  
E-mailアドレス [ngt111640@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt111640@pref.niigata.lg.jp)

### 5名の方々が新しい指導農業士に認定されました

平成28年2月2日、新潟県庁において認定式が開催され、南魚沼地域から5名の方々が新たに指導農業士に認定されました。知事からは、「優れた農業技術と経営管理技術を持つ皆さんには、次の世

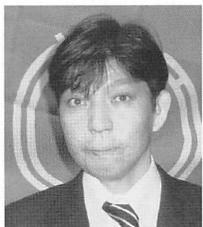


認定式での集合写真

代につながる若い担い手の育成や農業振興など、地域での活躍を期待する」と激励を受けました。

南魚沼地域の農業のリーダーとして、さらに活躍されるようお願いいたします。

### 新しい指導農業士の皆さん



南魚沼市 長崎  
あへ ひろたか  
阿部 宏隆 さん (水稲)

水稲専業で、8割減栽培と酒米栽培を行っています。南魚沼の農業発展のために頑張ります。



南魚沼市 徳田新田  
こばやし おさむ  
小林 治 さん (水稲+大豆+農産加工)

水稲、大豆の栽培とこれらを使った味噌加工の法人経営です。今後は習ったこと、覚えたことを若い人に伝えていきたいです。



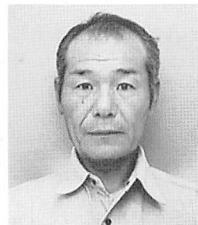
南魚沼市 法音寺  
なみき やすお  
並木 泰夫 さん (水稲)

水稲専業で、特別栽培米に取り組んでいます。コスト低減、良品質米栽培に取り組み、若い人に技術を伝えるよう努めます。



南魚沼市 新堀新田  
かさほら たかひろ  
笠原 貴博 さん (水稲+園芸)

稲作・トマトの複合経営を行っています。今よりさらに農業の技術を磨き、次世代に伝えていけるように努力します。



南魚沼市 湯谷  
かみむら やすひろ  
上村 育弘 さん (水稲+園芸)

水稲は減農薬減化学肥料栽培に取り組んでいます。今後は園芸に力を入れ、担い手を育てていきたいと思っています。

# 平成27年産米を振り返って

平成27年産米は、当初順調な生育をしていたものの、登熟期の低温少日照や一部地域での強風害等により品質が目標に達せず、収量も不十分となりました。

生育の問題点や今後に向けた対策をまとめましたので、次年度に向けそれぞれの管理を見直していきましょう。

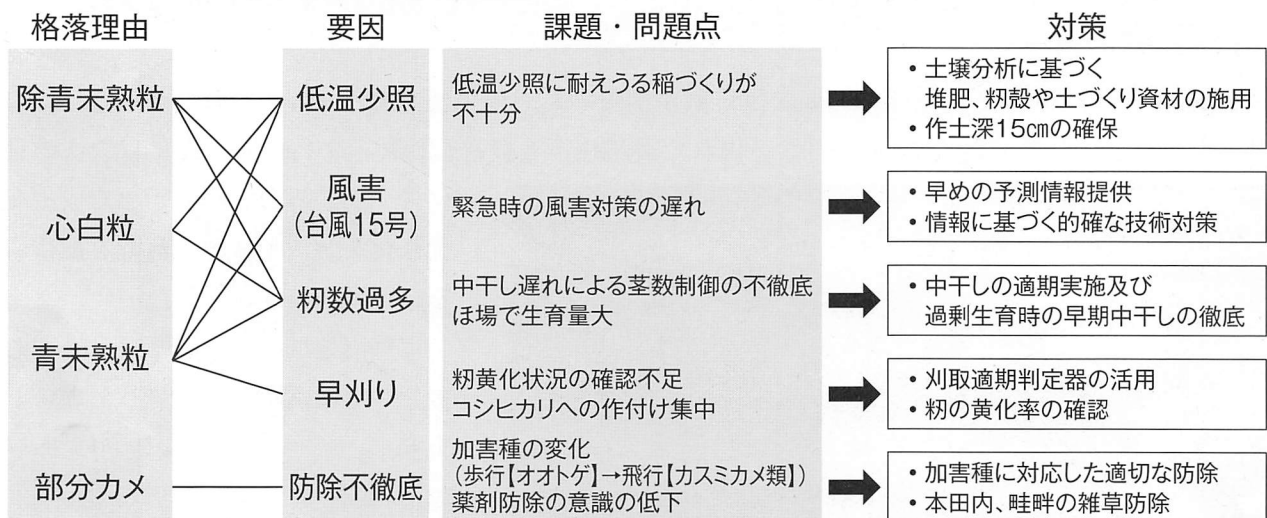
## 1 平成27年産米の状況

コシヒカリ1等級比率：84.7%（平成27年12月末現在JAしおざわ、JA魚沼みなみ検査実績より）

主な格落ち理由：除青未熟粒、青未熟粒、心白粒、部分カメ

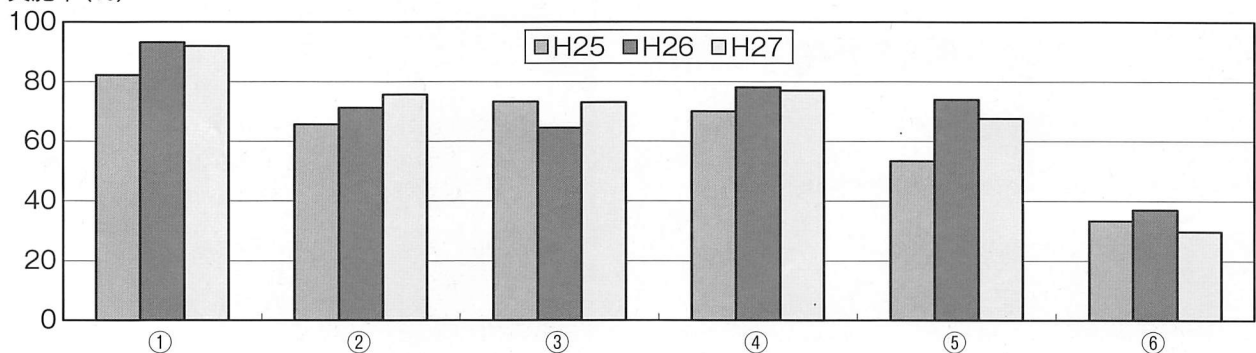
作況指数：97

## 2 格落ち要因から見た課題と対策



## 3 重点技術の年次別実施状況 ～担い手へのアンケート結果から～

実施率(%)



(質問項目)

- ① 水田の15cm深耕の実施
- ② 中干しを地域で指導された時期に実施
- ③ 中干しは強すぎないように小ヒビで実施
- ④ 出穂1ヶ月前までに中干しを終了
- ⑤ 穂肥時の生育診断(分施肥体系)
- ⑥ 追加穂肥時の生育診断(一発体系)

○中核的な農業者へのアンケートの結果では、実施率が90%を超える技術があるものの、中干しの適期実施や穂肥時の生育診断など実施率はまだ低い状況です。

○適正な生育を確保するため、適期中干しや生育を的確に捉えた穂肥を心がけ、良質米生産に取り組みましょう。

## 農作物の鳥獣被害軽減対策について

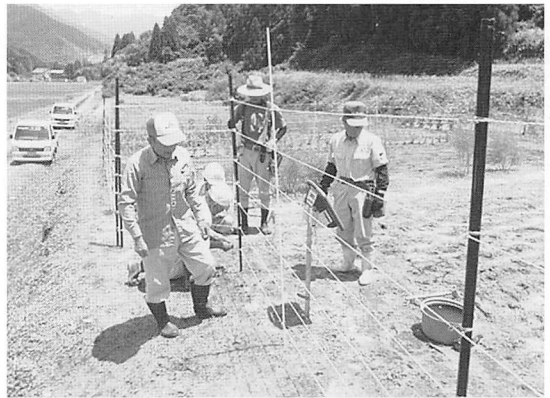
南魚沼地域では鳥獣による被害が拡大傾向にあり、これまで普及指導センターでは被害の軽減に向けた電気柵の設置や有害鳥獣捕獲、サルの行動調査等への支援を実施してきました。平成27年度には、南魚沼市で8地区（5,145 m、19.44ha）の大規模電気柵設置を行い、被害防止が図られています。

平成28年は山の実が凶作となる可能性が高く、獣類が大量出没する恐れがあります。身の回りからできる対策として、①くず野菜等エサとなるものを畑周辺に廃棄しない、②不要な果樹を伐採するか、トタンを巻いて登れないようにする、③侵入経路となる藪の刈り払い等を実施し、獣類を引き寄せないようにしましょう。

それでも被害が減らない場合は、在住市町へご相談のうえ、花火等による追い払いや捕獲、電気柵の設置等を行きましょう。

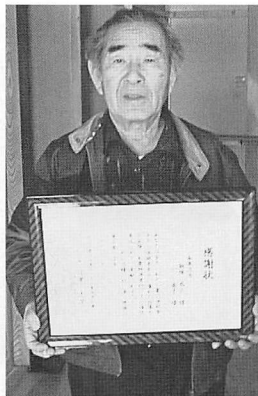
〈お問い合わせ先〉

- ・南魚沼市農林課 : 773-6663
- ・湯沢町環境農林課 : 788-0291
- ・振興局企画振興課 : 772-3918



### 担い手育成の 取り組みで 表彰されました

平成27年度新潟県農林漁業担い手対策表彰事業において、南魚沼市八色原の飯塚恭正さん、富子さんが長年にわたり研修生の受入など若手農業者の育成に大きく貢献されたことで感謝状が贈呈されました。



### ニュー農業塾の 新しい塾生を募集します

- 1 目的 地域営農の担い手に必要な栽培技術、経営管理能力等を身につける。
- 2 募集コース ① 稲作コース ② 野菜コース※  
(※すいか、養液土耕栽培ミニトマト、かぐらなんばん等の複合品目コース)
- 3 開催時期 平成28年4月～29年11月  
(各コース年4～5回、2ヶ年間)
- 4 講師 地域のリーダー的農業者(塾長)、普及指導員
- 5 応募資格
  - ・新規就農者
  - ・就農、就業して数年以内の者
  - ・新たに園芸品目に取り組む者

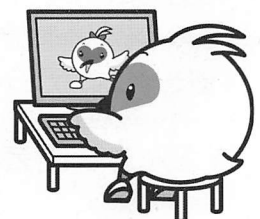
〈お問い合わせ先〉 南魚沼農業普及指導センター  
ニュー農業塾担当 電話：772-3918、FAX：772-2612

### 迅速かつ詳細な稲作情報をお届けします

気象変動に負けない稲づくりに向け、迅速かつ詳細な情報提供を行います。外出中でも内容が確認できる携帯電話メール版と、詳細な内容のわかるパソコン版の両方の受信をおすすめします。

情報をご希望の方は、氏名をご記入の上、パソコン及び携帯電話メールのアドレスを以下のアドレスまでご送信ください。

〈申し込みアドレス〉 [ngt111640@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt111640@pref.niigata.lg.jp)  
(全て半角、太字部分は数字です)



# 稲作経営体への園芸導入



普及指導センターでは、稲作経営体の所得確保の1つの柱として園芸を推進しています。ここでは、実際に園芸を導入した経営体に聞き取った結果から、どのように園芸を導入し、経営部門として確立していったのかを紹介します。

## 園芸を導入した経営体に聞いてみました



### 1 園芸導入のきっかけは何ですか？

- 専業による所得確保のため。  
(米価下落、生産調整、水稲が小規模)
- 地域の仲間、JA、普及指導センターからのすすめがあったから。
- 後継者の就農、新規就農を契機に。
- 品目の転換、直売所に参加したから。



### 2 なぜ、その品目を導入しましたか？

- 仲間からすすめられたから。
- 地域の特産品目だから。
- 普及指導センター、JAの推進品目だから。
- 直売所向けの品目だから。
- 水稲育苗ハウスを活用できる品目だから。
- 冬期間出荷できる品目だから。



### 3 定着するまで苦労がありましたか？

- 近くの仲間に教わりながら、軌道に乗るまでに5年はかかった。  
(技術習得までに苦労)
- 時期毎の管理作業を回すのに苦労した。  
(仕事の流れを理解するまで苦労)



### 4 園芸を導入した成果は何ですか？

- 所得が向上した。
- 年間の資金繰りが楽になり経営が安定した。
- 家族内の役割分担が明確になった。
- 仲間づくりができた。
- 周年型農業が実現した。



### 5 今後の複合営農の展開や課題は何ですか？

- 更なる安定した収量・品質を確保したい。
- 優秀な人材確保のための年間雇用をしたい。(特に冬期間営農の創出)
- 冬期間貯蔵の体制づくり、技術習得をしたい。
- 連作障害を解決したい。
- 観光業が盛んなことを活かした経営を検討したい。



養液システムを利用した  
トマトのコンテナ栽培

以上から…

～南魚沼地域における園芸導入のポイント～

- 生産部会、研究会等、既に取り組んでいる仲間からの情報収集を！
- JA、普及指導センター等の研修会、技術情報から栽培技術の習得を！
- 園芸導入のきっかけは些細なことから！栽培練習期間も意識して！



皆さんも、園芸の導入を考えてみませんか？